

閉会挨拶

就職問題委員会 中 明夫 委員長

皆さん、三日間の研修、ご苦労さまでした。

三日間の研修はいかがでしたでしょうか。毎年、この研修会の感想を皆さんに書いていただきまして、次年度に向けてよりよい研修ができますように、運営委員の方でいろいろアンケートのご感想を参考にさせていただいております。是非、感じたことをアンケートにお書きいただいて、受付の方にお出しいただきたいと思っております。

私ども、研修会を毎年企画するにあたって、幾つかの点を念頭に置きながら、プログラムを作っております。私の個人的な意見を含めて申し上げさせていただきますと、やはりこの研修会で、皆さんに習得していただきたいことが、幾つかあります。

短大生がこれから社会に出るための第一の関門が、“採用されること”。そのために、通常の大学のカリキュラムでは組み込めない内容について、皆さんは、短大の学生諸君にいろいろな手段を講じて情報提供し、あるいは知識を提供するということがされている。そのような役割を皆さんが担っておられる以上、就職支援をする担当者として、学生たちに教えたり、指導するためのスキルというものを最低限、身につけていただく必要があるだろうと思っております。ということで、先ほどの確氷先生の話にあるような内容、必ずしもすべての短大で、会社の決算書の読み方のようなことを勉強するような学科構成ではないところも当然あると思っております。あるいは、そのような科目があったとしても、必修として、全員に受講させているということはなかなか難しいと思うのです。そういう意味で、やはり学生が就職先を選ぶとき、就職したのはいいけれども、3年も経たないうちに会社がなくなってしまったということに、不幸にも就職するということがないように、やはり皆さんは、学生が就職先を選ぶに際して、適切なるアドバイスをしていただく必要がある。それからいろいろな企業からの情報を収集するに際して、当然、業種業態をきちっと理解をしながら、あるいは世の中の業種の環境がどのように変わっていったのかということ、まず皆さんが情報としてキャッチしていただき、来年に向かっては、このような業種を重点的に推薦していくべきかなということ、是非ともつかんでいただく必要があるだろうと思うのです。この研修会におきまして、そのようなスキルを身につけていただくということを考えながら、毎年研修会のプログラムを作らせていただいております。

それからもう一点、これは開会式の挨拶のときに申し上げましたが、学生にとって、地元の企業、あるいは地方公共団体である諸団体に就職したいという希望が圧倒的に多いということは、昨日も何人かの皆さんからお聞きしました。しかし、やはりこういう時代になってきますと、なかなか全部地元で就職をさせるということは難しい状況だと思うのです。学生によっては、20代の時ぐらひは、思い切ってよそに出て行って就職をしようと考えている学生もいると思うのです。そのような時、全国津々浦々の情報をご自身が一人で収集し、学生を就職させるということは、ほとんど不可能です。折角、短大協会という全国組織のネッ

トワークがあるわけですから、そのネットワークの中で、就職支援をしているという皆様方担当者同士が、自由に情報交換できるネットワーク、これほどなたかがやってくれるというもではなくて、自らがネットワーク作りに努力していただきたいと思います。この2点をこの研修会を通じて是非、皆様に提案させていただきたいと思っております。

最後になりますが、皆様がそれぞれの短期大学にお帰りになったあと、お願いしたいことが一点あります。それは、短大協会には全国の会員組織の中に、エリアごとに支部が作られております。当然、各支部においていろいろな総会や会合を組織的に行っていると思います。ただ、私の感じるところでは、具体的な活動を支部単位で行っているのだろうかということに危惧しています。近年、就職に関して、非常に厳しい状況になっている時に、各支部に所属されている会員校の就職支援担当者の皆さんによって定期的な会合が持たれているのだろうか。今、もし、そういう会合を実施していない支部がありましたら、是非とも早急に始めていただきたい。

とくに、その支部単位でお集まりいただいた皆さんに取り組んでいただきたいのは、大学・短大が一方向的に企業に対して、採用することへの要望ばかりを考えるのではなく、やはり卒業生、いわゆる新卒者を採用する側の視点を是非理解する必要があるのではないかと思うのです。そして、各採用側のいろいろな諸団体、あるいは業界団体の方といろいろな情報交換、意見交換するに際しては、個々の短大で行うというのは、非常に難しいことだと思うのです。折角、私立の短大は、支部ごとの組織をもっておりますので、支部の会員校の皆さんによる活動を活発化させていただきたい。

皆さん、各短大に帰られて、是非、私が今お願いいたしましたことを早速、実現していただきたいと思います。関東地区でも、四年制大学のいろいろな研究会や集まりはあるけれど、短大の集まりは、必ずしも活発にやっていないということを私は聞きました。やはり短大は、そういうことに対して、あまりに一生懸命やってこなかったということを、まず反省する必要がある。それが短大生にとって四大生に負けない就職の環境を作り上げる唯一の方法であろうと思います。

また来年、研修会で皆様にお会いできますこと楽しみにさせていただいて、私の閉会の挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。